



●報告書 No. 1

痛みについての知識と実践の隔たり

慢性疼痛は世界で何百万人もの人々の人生において苦しみとなり、先進国と発展途上国で同じように世界的な機能障害の原因である（1）。不幸なことに、政治家も、介護者も、行政管理者、そして一般大衆にいたるまで痛みとその健康福祉に対する悪影響は十分に理解されていない。痛みのコントロールが十分に行われなければ、患者とその家族を苦しめるだけでなく、行政と公的資金にとっても大きな負荷になる。

アメリカ国立衛生研究所は年間 5600 億～6350 億 US ドルが慢性疼痛に対して要すると概算している。これは、最も医療経済的負荷が大きいとして知られている 6 つの疾患領域[心血管疾患（3090 億 US ドル）、悪性新生物（2430 億 US ドル）、外傷と急性中毒（2050 億 US ドル）、代謝内分泌栄養疾患（1270 億 US ドル）、消化器系疾患（1120 億 US ドル）]を大きく上回っている（2）。



© Copyright 2018 International Association for the Study of Pain. All rights reserved.

国際疼痛学会（IASP）は、科学者、臨床医、医療者、政策立案者が団結して痛みについての理解が進むように支援し、世界中の痛みに対する治療がより良いものになることを目指しています。

国際疼痛学会は 2010 年にモントリオール宣言「全ての人々は適切なトレーニングを積んだ医療者から適切な痛みの評価と治療を受ける権利がある」を採択した。しかし、効果的な疼痛治療についての理解することと実際に提供される患者ケアの実践内容とには依然として隔たりがある。急性疼痛、慢性疼痛、そして（あるいは）がん性疼痛に対する治療についての一般大衆に向けた専門家による教育活動は、まだ不十分であると世界中で繰り返し指摘されてきている。その結果、多くの人々が自分自身で痛みによる悪影響や社会的に不利な状況に対して取組もうとし、治療法の選択肢に気付かない状況に陥っている。

若年者から高齢者に至るまでの全ての世代において不適切にしか疼痛がコントロールされていない現状は、痛みについて正しい教育が行われていないことと関連している。患者自身が自分で痛みをコントロールしようとしている間は痛みの治療の失敗はより深刻化する。痛みについての正しい教育は、医療者、政治家と行政担当者、疼痛患者自身とその家族、そして一般大衆を対象とすることにより、不十分な疼痛治療が実践されていることを改善するための重要な戦略である。全ての人々が適切な疼痛治療にアクセスできるように、痛みの教育をより良いものにする国際的な取組みができるはずである。

今こそが痛みについての教育に焦点を当て、そして、痛みの知識と実践の隔たりを埋めていく時である。

世界的な関心として、痛みを取り巻く公衆衛生の問題の全体的な規模が分からないことが挙げられる。健康医学についての専門的な教育においては、必ずしも痛みの問題が必須で優先度が高いとは認識されていない。さらに、北米を中心に急激に悪化してきたオピオイド使用の危機的状況については、薬物依存に対する認識と治療について特に強調されているが、痛みの評価と治療についてはないがしろにされてきていると言わざるを得ない（3）。その結果、初級者向けの痛みについての教育でも、痛みの評価と治療についての注意喚起が十分でない。また、上級者向けの痛みについての教育の進歩と改善は遅々として進んでいない。さらに加えて、専門的な疼痛治療についての教育は散発的にしか行われていない。最新の研究と臨床医学におけ



© Copyright 2018 International Association for the Study of Pain. All rights reserved.

国際疼痛学会（IASP）は、科学者、臨床医、医療者、政策立案者が団結して痛みについての理解が進むように支援し、世界中の痛みに対する治療がより良いものになることを目指しています。

るエビデンスが取り入れられていない現状は、理想的な疼痛治療の実践の普及に悪影響を与えている。

知識と実践の隔たりがあり、教育が不十分な疼痛領域には以下が挙げられる。

- 医療者の卒前教育カリキュラムにおける痛みの教育内容が未だ不適切である
- 医療専門職の資格取得時に適切な痛みの評価と治療、特にオピオイド使用の安全性と効果的な使用方法についての診療技能を求めることがほとんどない
- 卒前教育での痛みに関する診療技能を十分に教育され適切な実践に結びつけることが不十分である
- 医療専門職の資格取得後に、痛みの診療についての専門教育を受ける機会が少ない。
- 新しいエビデンスが、疼痛診療の実践にあたって理想的に導入されていない。
- 疼痛治療の計画とフォローアップにおいて、患者およびその家族の声が十分に考慮されていない。
- 痛みについての教育の成果が定期的に評価されておらず、また、痛みの教育の成果は知識量を問われることが多く、患者に対する診療技能や患者の診療結果が評価されていない。
- 痛みの公衆衛生全体への影響とその結果について十分に理解されていない。
- 慢性疼痛患者はしばしば治療の選択肢があることに気付いていなかったり、その治療選択肢にアクセスできないことが多い。

「痛みについての教育」の世界年では、このような痛みの知識と実践の隔たりに着目し、以下の4つの領域について考えたい。

1. 一般大衆と行政に対する教育
2. 患者に対する教育
3. 医療者に対する教育
4. 痛みの教育についての研究



© Copyright 2018 International Association for the Study of Pain. All rights reserved.

国際疼痛学会 (IASP) は、科学者、臨床医、医療者、政策立案者が団結して痛みについての理解が進むように支援し、世界中の痛みに対する治療がより良いものになることを目指しています。

参考文献

1. Rice A., Smith B, Blyth F. Pain and the global burden of disease. *Pain* 2016; 157(4): 791-796
2. Darrell J., Richard P. The Economic Costs of Pain in the United States. *J Pain* 2012; 13(8): 715-724
3. National Academies of Sciences, Engineering, and Medicine. *Pain Management and the Opioid Epidemic: Balancing Societal and Individual Benefits and Risks of Prescription Opioid Use*. Washington, D.C.: National Academy Press; 2017.

著者

Paul Wilkinson, MB, BS, B.Med.Sci, M.Clin.Ed., MRCGP, FRCA, FFPMRCA
Chair, Global Year Task Force
Chair, IASP SIG Education
Consultant in Pain Medicine
Newcastle Pain Management Unit
Royal Victoria Infirmary
Newcastle upon Tyne, UK

Judy Watt-Watson, RN, MSc, PhD
Professor Emeritus
Lawrence S. Bloomberg Faculty of Nursing
Senior Fellow, Massey College
University of Toronto
Toronto, Ontario, Canada

査読者

Daniel B. Carr, MD, DABPM, FFPMANZCA (Hon)
Professor of Public Health and Community Medicine (primary appointment)
Professor of Anesthesiology and Medicine (secondary appointments)
Founding Director, Tufts Program on Pain Research, Education and Policy
Public Health Program
Tufts University School of Medicine
Boston, Mass., USA

Andrea Kopf, dr. Med.
Dept. of Anaesthesiology and Intensive Care
Campus Benjamin Franklin
Charite – Medical University Berlin
Berlin, Germany

Insert reviewer information here (Font: Calibri, 9 point)



© Copyright 2018 International Association for the Study of Pain. All rights reserved.

国際疼痛学会（IASP）は、科学者、臨床医、医療者、政策立案者が団結して痛みについての理解が進むように支援し、世界中の痛みに対する治療がより良いものになることを目指しています。

翻訳者

住谷昌彦（東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部/麻酔科・痛みセンター）

Masahiko Sumitani, MD, PhD

Associate Professor, Department of Pain and Palliative Medicine/Anesthesiology and Pain Relief Center, The University of Tokyo Hospital, Tokyo, Japan

「痛みについての卓越した教育」世界年として、IASP は「痛みについての卓越した教育」に関する一連の報告書を作成した。これらの文書は、複数の言語に翻訳され、無料でダウンロードできます。詳細は www.iasp-pain.org/globalyear をご覧ください。

国際疼痛学会について

(the International Association for the Study of Pain®)

国際疼痛学会（IASP）は、痛みに関する全ての科学、診療、および教育の分野における専門学会である。疼痛の研究、診断、または治療に関与する全ての者が入会資格を持つ（Membership is open to all professionals）。IASP には 133 カ国 7,000 人の会員が所属し、90 の国単位の支部学会、20 の分科会がある。



© Copyright 2018 International Association for the Study of Pain. All rights reserved.

国際疼痛学会（IASP）は、科学者、臨床医、医療者、政策立案者が団結して痛みについての理解が進むように支援し、世界中の痛みに対する治療がより良いものになることを目指しています。